



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

日赤あいち

No. 157

2024. 冬

CLOSE UP

地域の防災力向上のために

TOPICS

愛知県支部長 新年のご挨拶

第41回 NHK海外たすけあい



CLOSE UP

地域の
防災力向上の
ために

第41回 NHK海外たすけあい

NHKと日本赤十字社は毎年12月に「NHK海外たすけあい」として、世界で苦しんでいる人々を支援するための寄付金を募集しています。

イスラエル・ガザの人道危機や、いまだに続くウクライナ各地での紛争激化など、現在世界では1億人以上の難民、避難民がいます。今回は「今、危機に瀕している1億人の命をつなぐために。」をテーマに、寄付金を募集しました。

愛知県支部では今回もNHK名古屋放送局や愛知県支部で寄付金の受付を実施し、その他にも県内各地で赤十字奉仕団による街頭募金を行い、多くの方にご協力いただきました。

皆様からお寄せいただいた寄付金は、海外の紛争や災害、飢餓、病気などにより苦しんでいる人々を支援する赤十字の活動に役立てられます。

ご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました。



NHK名古屋放送局での受付

赤十字は、動いてる！

今、危機に瀕している1億人の命をつなぐために。



海外たすけあいポスター

活動資金

ご協力
ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として
多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ 日本パッキング株式会社 様
- ▶ 松本ファミリークリニック 様
- ▶ 藤吉工業株式会社 様
- ▶ 株式会社大日 様
- ▶ 株式会社ネクステージ 様

PRESENT

オリジナル
サコッシュ

20
名様

お出かけやアウトドアなど、様々なシーンでご利用
いただける小型のショルダーバッグです。



応募先

Mail: aichi-koho@aichi.jrc.or.jp

Fax: 052-971-1590

郵送: 〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

明記事項

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など

締切/令和6年3月31日必着

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)

発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和6年1月1日

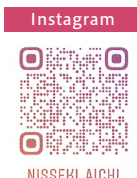


活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち

検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/



NISSEI.AICHI

Topics トピックス

活動やイベントを報告します

第3ブロック合同災害救護訓練

11月17日(金)～18日(土)にかけて、愛知県支部主催で「第3ブロック合同災害救護訓練」を実施しました。

今回の訓練は、愛知県内で大規模な大雨災害が発生したという想定で実施しました。

近年、国内で毎年のように豪雨災害が発生しており、これまでも日赤第3ブロックは、令和元年東日本台風(台風19号)災害をはじめとした大規模な災害に対して、近隣支部と連携しながら対応してきました。

本訓練でもそうした実災害の対応を見据え、実際に第3ブロック内の各県支部から救護班や支援要員が愛知県に集結しました。さらには、他病院のDMATチームや豊田市といった関係団体の協力も得て、多くの組織が協働する訓練となりました。



この合同訓練は、大規模災害時に中部・北陸地方の8県が連携して救護活動にあたるよう毎年行っています。



愛知県支部の災害対策本部機能の一部を日赤愛知災害管理センター棟に移し、8県の支援要員が情報を収集



長野県・静岡県・三重県の救護班は日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院・名古屋第二病院の病院支援へ



富山県・石川県・福井県・岐阜県の救護班は豊田看護大学に設けられた避難所の医療支援へ



各県の救護班の宿泊は愛知県赤十字血液センターのロジスティクスセンターを使用



特別赤十字奉仕団の協力の下、赤十字のボランティアセンターを設置し、ボランティアニーズの調整を

今後も赤十字では災害時に一人一人の被災者に寄り添った支援を行うため、近隣支部及び関係団体との連携した訓練を重ねていきます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます



平素から赤十字事業の推進に格別のご理解とご高配を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は世界各地で大規模災害や紛争による人道危機が発生する中、当支部でもこれらの災害・紛争に対する海外救援金を募集したり、県内赤十字施設から現地に職員を派遣する等、支援してきたところです。

また、国内に目を向けると、例年になく記録的な大雨を観測する中、当支部では被害を想定した訓練や県内各地への資機材整備、防災セミナーなどを通して大規模災害への対応能力と地域の防災力向上に努めています。

さらに人々の価値観やニーズが一層、多様化・複雑化し、貧困問題や孤独・孤立問題など様々な課題が顕在化している中、当支部では子ども・子育て世代の支援、高齢者健康生活支援、多文化共生社会の実現に向けた事業の推進、災害時の被災者支援という4つの重点分野を中心に、社会課題に応じた活動を実施しているところです。

本年も地域の課題解決に資する赤十字事業の新たな展開に向けて取り組み、県民の皆様からのご期待に応えるべく、尽力してまいりますので、今後とも引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社
愛知県支部
支部長
大村秀孝

言葉の壁を越えスポーツでつながる

名古屋オーシャンズと協働で
フットサル教室&救急法講習を開催

愛知県支部では10月1日(日)に、多文化共生事業の一環として、当支部とパートナーシップ協定を結ぶフットサルチーム・名古屋オーシャンズと知多市との協働によりフットサル教室・救急法講習を実施しました。市内の外国にルーツを持つ子どもなどを対象として、多くの方に参加いただきました。

参加した多くの子どもたちは、スポーツを通じて楽しみながら同じ地域に住む仲間と交流し、相互理解を深めるきっかけになりました。

また、当日は「やさしい日本語」でAEDの使い方や心肺蘇生の方法を学ぶ大切さを伝え、子どもたちは真剣に講習に取り組みました。

日本赤十字豊田看護大学
開学20周年記念式典・記念講演会・シンポジウムを
開催しました

本学は2004年に開学し、今年度開学20周年を迎えることができました。11月11日(土)の記念式典では、豊田市の安田副市長をはじめ、中部地区の支部・赤十字病院や実習施設の方など多くのご来賓の方々にお越しいただきました。

式典後、記念事業の一つとして整備したLEDビジョンを用いて、名古屋大学の福和伸夫名誉教授による記念講演および医療、企業、大学の各専門家による防災・減災シンポジウムを開催し、それぞれの立場から意見交換を行いました。

本学が開学20周年を迎えることができましたのは皆様からの温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。本学は皆様のご期待に添うべく、これからも人道の心を持った赤十字看護師の養成に努めてまいります。

当日の様子はこちら▶

大規模な地震災害を想定した
訓練を実施

名古屋第二病院の職員200名が参加

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で11月17日(金)、南海トラフ地震を想定した災害訓練を行いました。

大規模訓練としては4年ぶりとなる今回は職員約200名が集まり、診療エリアの展開や多数傷病者の受け入れ訓練を行ったほか、各病棟・外来でも発災時の動きを確認するなど病院全体で取り組み、職員の意識を高めました。

同院は愛知県の地域中核災害拠点病院として、災害が起きた際にたくさんの傷病者を受け入れる役割があります。訓練で見つかった課題を今後に関し、さらに体制を強化していきます。



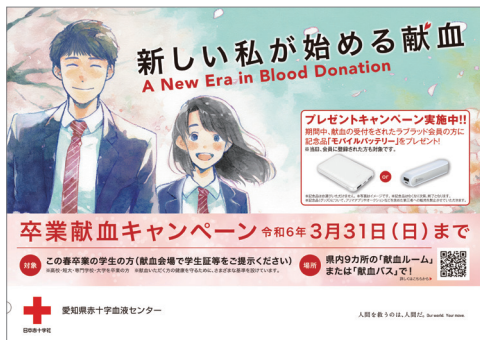
卒業献血キャンペーン

新しい私が始める献血

愛知県赤十字血液センターでは、この春に高校・短大・専門学校・大学を卒業される学生の方を対象に「卒業献血キャンペーン」を実施します。県内9カ所の献血ルームまたは献血バスで献血の受付をされたラブラッド会員の方(当日、会員に登録された方も対象)に「モバイルバッテリー」をプレゼント!(学生証をご提示ください)期間は令和6年3月31日(日)まで。(記念品が無くなり次第終了)

将来にわたって輸血用血液を必要とする患者さんの命を守るためには、若い方々の献血へのご協力が必要です。この機会にぜひ、献血会場へお越しください。

県内の献血ルームと献血バスの最新情報はこちらから▶



児童が段ボール
ベッドの組み立てを
体験
段ボールベッドの頑丈さ
と温かさを実際に体感し
てもらいました!



田原市赤十字奉仕団による保護者向けの救急法
人形を使って心肺蘇生法とAEDの使い方について学びました!



災害図上訓練 (DIG)
を実施
大きな地図を囲んで、積極
的なディスカッションを行いま
した!

田原市立亀山小学校では、全校児童を対象に段ボールベッドの組み立て体験を行い、その後は保護者の方々も一緒に避難所へ避難するときの持ち物について親子で考えました。参加した児童からは、「帰ったらお家で防災リュックを準備しよう!」という声があり、親子で防災について考える機会となりました。さらに、保護者の方々は田原市赤十字奉仕団による救急法講習を受講し、いざという時に備えて心肺蘇生とAEDの使い方について学びました。

また、自治会の役員や消防団などの地域住民の方々は赤十字防災セミナー「災害図上訓練(DIG)」を受講いただき、大きな地図に地域の特徴などを書き込みながらディスカッションすることで、災害時の地域の危険区域などについて参加者同士で共有することが出来ました。

防災プログラム

田原市福祉部地域福祉課インタビュー

今回、日赤愛知県支部と連携して関係機関や住民とともに「地域のための防災・減災訓練」を実施することで、例年、市と地域で行っている防災訓練の充実化や、地域住民の防災意識の向上を期待していました。

田原市、地域住民、そして日赤愛知県支部と合同の訓練ができたことは、災害時における防災関係機関の連携強化につながる大変有意義なものとなり、より一層地域防災力の強化につながったと感じています。

また地域住民の方々にも子供から大人まで幅広い年齢層の方にご参加いただき、改めて赤十字の様々な活動について理解を深めていただく貴重な機会になったと感じています。

今後も日赤愛知県支部と連携して、地域の防災・減災に取り組んでいきたいと思っています。



一緒に準備を進めていただいた地域福祉課・防災対策課・健康課のみなさま

02

防災プログラム

亀山地区では初めての試みである地域住民による避難所開設訓練を実施しました。亀山小学校は避難所として指定されている場所であり、参加者からは、「見る・聞くだけでなく、実際にやってみることが大事である」という声があり、災害に対する意識を高めることができました。そして、開設された避難所へ、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院・名古屋第二病院の両病院から救護班を派遣し、田原市の保健師と連携して避難所での医療救護実働訓練を実施しました。亀山地区の住民の皆さんに避難者役を演じていただくことで、関係機関だけでなく地域住民の方とも協働で訓練を行うことができました。参加した保健師からは、「市の災害時対応マニュアルの足りない部分の発見や事前に準備しておくべきことが分かった」「実際に医師から指示を受け看護師の動きを見ながら一緒に活動したことで、災害時の連携についてイメージをつかむことができた」という声があり、事前の備えや関係者との連携の重要性について確認することができました。

災害時には関係機関との連携が重要です。今回の訓練では田原市、豊川保健所、田原市消防本部など各機関と協力して実施することで、連携を強化することができました。



救護班による
避難所アセスメント
病院の救護班が避難所
に伺い、避難所での困り
ごとなどの聞き取りや、
体調不良者の問診などを行
っていました。



地域住民による避難所開設訓練
実際に住民の皆さんが避難所を開設しまし
た!

03

地元婦人部や
近隣地域赤十字奉仕団との
連携

田原市赤十字奉仕団は、救急法講習だけでなく、地元で活動されている亀山婦人部の皆さんと合同で炊き出しも行いました。アルファ化米の混ぜご飯や豚汁を作り、避難者役の地域住民や訓練参加者に提供しました。

当日は、蒲郡市と新城市の地域赤十字奉仕団が駆け付け、炊き出しのお手伝いなどを行いました。災害時には被災地域だけでなく近隣からの支援も必要になるため、一緒に活動を行うことで、奉仕団同士の連携を深めました。



新城市赤十字奉仕団の
人形劇
ハートラちゃんが登場する赤十字の紹介な
どの人形劇に、子どもたちもくぎ付けでし
た!



田原市赤十字奉仕団&
亀山婦人部の炊き出し
寒い中での訓練だったため、温かい食
事が参加者のみなさんに大好評でした!



蒲郡市赤十字奉仕団の
カレー作り
児童用にキッチンカーを使ってカレーライ
スを作りました。
カレーライスのご飯は、田原市赤十字奉仕団
の指導の下、児童自身がハイレックス(高
密度ポリエチレン袋)を使って準備! 袋から
空気を抜いて輪ゴムで止める作業に苦
労しながらも、楽しそうに炊き出し体
験をしていました!